

崎 定 長 検

一級 さん

Vol.22

人生の“刺激剤”

長崎検定に感謝

馬場ばば

秀喜ひで
さんき

合格率〇・三％…。長崎歴史文化観光
検定の最難関を突破した一級ホルダー。
その卓越した識見には、なにやら一家言
ありそうです。
さつくばらんに寄稿願いました。

平成二十三年三月東日本大震災の被災者の皆様の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

現在、休日の空いている日に、さるくガイドをさせて頂いている。長崎の観光産業の最前線を担う重要なボランティア活動である。昨年のNHK「龍馬伝」放映中は、全国から多くの観光客が長崎を訪れ、中には若い女性の方が一人でまち歩きに参加されている姿も目にした。毎回参加料五〇〇円を頂きながら一緒に歩いて頂いた方々に、それ以上の感動と満足感を与えることができたのか反省することも…。一方、訪れる度に季節の花を咲かせたり、微妙に変化する「長崎のまち」を毎回見て回ることを楽しんでいる。

振り返ると一年前の平成二十二年四月に長崎検定一級の合格通知を頂いた。日頃から一日中パソコンの前で仕事をしている自分にとって、全てが記述式問題というのは非常に厳しいハードルであった。長崎の歴史については、日頃から興味があり、テキストも楽しく読まさせて頂いたが、いざ二〇〇字以内で設定されている過去問を解いてみるとなかなか文字、特に漢字が浮かんでこない。また、

何度か自分なりに問題設定を行ないながら、筆を走らせてみるが最初はピンとこない作文が続いた。記述していくうちに自分なりの解答例が徐々に出来てきた。そういった集中的な受験勉強がしばらく続いた。大学入試センター試験を過ぎた頃の試験日程であり、いわば自分も一受験生であった。いよいよ本番となり、終わった後、「いけたかな」という手ごたえを感じていたが、自己採点よりも点数が取れていなかった。やはり、記載した漢字の間違いがいくつかあった。

長崎検定を受験して本当に良かったと思っている。短期間であったが仕事が終わった後や、日々の通勤バスの中で、しゃかりきに勉強することで、何となく過ごしていた毎日から自分を脱却させ、充実した日々を与えてくれたこの検定に感謝している。また、長崎市民であるのにほとんど知らなかった原爆のこと、その他長崎の食文化のことなど、今まで知ることのなかった分野まで身につけることができた。試験問題は分野によって深淺こそはあるが、全ての内容は自分では奥深い本当の長崎のことを知るための基礎的情報にすぎないと考えている。本当の勉強はこれからだ

なとつくづく感じており、興味あることに自分の時間を費やしてみようと考えている。また、新たなことに挑戦してみようと思っ
ている。四十半ばを過ぎて私をこういった気持ちにさせた長崎検定。長崎を理解すること以外にこれからの人生の楽しみ方を教えてくれた長崎検定。いくつになってもチャレンジすることは楽しいですよ。ぜひ皆様も一級へトライしてみたいかがでしょうか。



【プロフィール】

昭和40年、西海市（旧西彼町）生まれ。45歳。長崎市赤迫在住。
趣味は家族と旅をすること。

昨年十月号の本稿で、ご執筆頂きました岸川芳弘様（長崎歴史文化観光検定第五回一級合格者）がご逝去されました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。